

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの理念としては挙げていないが、年間の事業計画に取り組み課題としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の統一化を図る為に全体の朝礼・グループホームでの引き継ぎに理念の唱和を実施している。(グループホーム独自の誓いを唱和して、日々の実務に取り組んでいる)		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所の行事実施の際は、理念を理解していただける様な働きかけに努めている。	○	GH新聞に理念の掲載を行うなどで理解していただく足掛かりとしている。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者との散歩中や出退勤時に地域の方へ挨拶をするよう心掛けている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員は地域の夏祭りなどのボランティアをしたり、数回ではあるがカン拾いなどを実施している。(管理者は行政区の集まりや、敬老会等に出席をしている)		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホーム新聞を通して認知症の基礎知識、ころばん体操などの活動内容を掲載している。	○	地域の方の状況把握ができる働きかけ、取組もしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前期に自己評価を実施、年1回外部評価を受審しており結果を職員へ報告、取組課題を提示して改善に努めている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度実施されており、その場が出た意見等は、GH会議で報告している。また、実践できる内容については取組、サービス向上に努めている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に市町村との連携に努めている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	前期には、取り組めていないが、GH会議の中で資料配布などで職員の周知に努めたい。	○	制度の理解を深める為に会議を利用して職員周知を図っている。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体で取り組んでいる。今後も新職員に対して周知、理解に努める。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に書面で説明を行い、理解に努めている。(職員にも、重要事項・運営規定を配布して、周知に努めている。)		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員へは訴えは出来るが外部へはすることがない。今年度は、満足度調査の実施を計画しており、その中からも入居者の意見が把握できるのではないかと思われる。	○	満足度調査を入居者、家族へ依頼する。外部に対しては、機械が少ないので近隣者、市町村の担当者との交流の中でかんがえていく。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2か月に1度、ご家族への近況報告という形で報告している。(出納帳のコピー・写真貼布を行い同封するなどに努めている。) また、面会時に報告を行っている。	○	家族への近況報告に次月の行事の知らせを載せて参加を呼びかける。また、返信はがきを同封するなどの工夫を行う。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ家族代表の出席や意見箱の設置、苦情管理システムなどで対応している。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・運営推進会議へ職員の出席ができて、提案・意見が出せているように思える。また、年度計画の際はアンケートを取り職員の意見を反映していくように取り組んでいる。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事、入居者の通院など業務上の職員確保の調整を行っている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットで職員は日々ローテーションをおこなっており、全員で全入居者の援助に係わっている事で、職員の異動や離職によるダメージ防止に配慮している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	人事考課を活かし、職員育成に努めている。また、職員の能力を發揮できる環境に努めている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対して、人権尊重を重んじており、サービス評価委員会では、職員に対し「言葉・態度のえ？」等のアンケートを取ることで人権尊重をすることを学んでいる。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会を設けており、また、内容については伝達研修を実施して他職員への周知に努めている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への研修をGH職員は行い、研修と共に交流をする機会を持た。また、研修によりGHでのサービス向上を図れた。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	リフレッシュ休暇の導入などを試み、職員のストレス軽減を図る。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課の導入により、向上心を持って働きかけるよう取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時、本人の状況確認を行い、信頼関係を築けるように努める。	○	アセスメントを確実にを行い、情報を職員と共有していく。
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族からの相談時・面接時に困っている事等は伺い、受け止めるように努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際に、本人やご家族の状況を確認し、事業所内で対応を検討し支援に繋げて行くように努める。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ショートステイを利用する事で馴染んでいた事支援している。入所当初は職員が関わりながら、他の入居者と交流を図れるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の場面において、入居者の豊富な経験を聞いたり、お互いが協働しながら生活できるように支援している。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご本人の状況を報告・相談するという関係作りを行っている。又、介護サービス計画を立てる上で、ケアカンファレンスに参加していただき、職員と家族との意見交換を行いGHでの生活を支えていくように努めている。	○	ケアカンファに家族の参加が少ないので一人でも多くの方に出席していただけるよう働きかける。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	2か月毎の家族への便りで、状況の報告を行っている。面会時にゆっくと過ごしていただけるよう配慮を行い、より良い関係が継続できるように努めている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	必要に応じ、行きつけの美容院や歯医者等に行けるように支援している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	利用者同士の関係を把握し、食事の時間やお茶の時間にも孤立しないように努めている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて他機関への紹介。援助を行ったり、同事業者内における異動された場合は声掛けを行っている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向を聞くように努めている。意志表示が困難な方に対しても、日々の生活状況や表情を汲み取り把握に努めている。	○	希望主訴がある場合、すぐに対応・解決できるかを見極めて行動する。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行うとともに、日常の会話の中でご本人から話しを聞いたり、ご家族から情報を聞くように努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の心身の状態や生活リズムを個別のケース記録に残し、職員間で情報の共有を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞き取っている。グループホーム会議でミニカンファを行い、より良い介護計画ができる様にしている。	○	センター方式を作成し、認知症の方の意向や状態を把握し、より良いチームケアに繋げる。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した際に伴い見直しを行っている。	○	モニタリングの実施を活用し、現状に即した対応ができるように図る。
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のファイルを作成し、日々の様子や状態を記入して職員間で情報の共有を行っている。また、ケアプランに活かすように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、状態に応じた支援を行っている。ショートステイ受け入れ態勢体制にも取り組んでいる。また、状態変化があれば併施設設入所への働きかけを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	菜園作りにボランティアの方と協働して実りの楽しみを支援、また、回想法ボランティア・フラワーアレンジメントボランティア導入による創作性や他者との係わりを持っている。民生委員との意見交換の機会も設けている。	○	施設周辺の住民の方々にグループホームの周知を行うと共に、ボランティアの協力を呼びかける。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の身体状況の変化などにより、必要に応じた支援が出来るよう相談を行っている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて、隣接の包括支援センターと協働し、相談・支援を行っている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医を持っている。その他、状況に合わせた医療を受けられるように支援している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医への受診を定期的実施しており、相談・診断・治療を受けられるように支援を行っている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員に、日々の状態観察を行い相談できるような体制づくりになっている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的に面会及び医療へ状況確認を行い、早期退院に向けて相談を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化については、家族・医療との話し合いは行っており、対応を提示したり、方針を共有している。終末期についての対応はまだ取り組まはしていない。	○	終末期の取り組みについては、家族・本人の意向を汲み取り、職員との話し合いを十分に行っていく。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療との連携は行っており、職員にも方針を説明している。	○	今後に備え、研修や会議を行っていく。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む際には、ダメージを最小限におさえられるよう、日々の状況など情報提供を行うように取り組んでいる。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報についての研修は行っており、記録などに配慮している。サービス評価委員会の設置による、言葉・態度についての確認・改善への取り組みを行っている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の会話の中で、希望を汲み取り支援出来るようにしている。意志表示が困難な方に対しても表情などで読み取る様に努めている。	○	職員間の情報を密にして入居者の希望の表出や自己決定の支援が出来るように取り組む。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた生活を送って頂こうという思いで支援している。	○	特定の入居者の入浴・外出の希望にしか対応出来ていないので、全員を対象に取り組めるよう業務の見直しを行っていききたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し美容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ほとんどの方に、移動美容室を利用させていただいている。また、地域に馴染みの美容室がある方には、利用できるように援助を行っている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は夕食の副菜一品のみである。調理に参加できる方は限られているが、少しでも参加していただけるよう、また、好みの料理になるよう職員は献立に配慮している。		食維持時間が楽しいものとなるための工夫として、昼食・夕食と入居者と同じ場所で、同じ食事をとりながら会話を持てるように努めている。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を考慮しながら食事やおやつを提供している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握に努め、個別に対応するように職員間で情報の共有に努めている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人の体調や希望などを伺いながら、一日の中で希望に応じられるよう、また、タイミングに合わせた入浴を実施している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別に生活パターンを把握しながら、また、体調の変化に応じながら安心して生活を送れるよう努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	副菜作り、配膳、カレンダーの入れ替え、希望の応じ散歩、買い物の同行・好みの音楽を流したり裁縫などを強制しないように提供している。梅干し、干し柿作りも行っている。しかし、入居者のレベル低下が見られ困難になってきている。		個々が発揮できるよう、負担にならない配慮を行い援助していく。副菜作りの野菜を洗う、皮をむく等の家事手伝いを増やしていく。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんど職員管理である。自己管理の方もおられるが、使う場面が少ない。可能な限り支払ができる入居者の方には助言、見守りでレジでの支払いを行っている。		お金が手元にないと不安、不穩の原因と見るだけでなく、家族とも相談を行い自己管理していただき社会性をもっていただく働きかけをしていきたい。(菓子類などの支払については、入居者自身で行っていただく)
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・ドライブは不定期に行っている。個々の希望に添った誕生企画など出来る限り、希望に答えられるよう努めている。		重度の方は通院援助のみの外出となりがちである為、散歩などを考えていく。その日の希望に添えるよう職員間で情報共有・連携を図る。遠出の企画の場合はボランティア・実習生の応援を得たり、他部署の外出企画に参加するなどを考えていく。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出企画で季節を感じて頂いている。ご家族との外出の機会を持っていただくことに関しては、ほとんど出来ていない。希望は受けているが、個々の支援が出来ていない。	○	遠出であれば計画して実施していけるよう職員間で協力していく。ひとつでも出来ることから実施していく。家族へも、協力の呼びかけを行う。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を希望される方には、職員は少し離れた場所で見守りをする等、希望時に対応している。		電話をする時間帯の、家族の意向を尋ね入居者へ伝えるなどでスムーズな連絡が取れるよう配慮する。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	気軽に来園して頂き、ゆったりと過して頂けるように居室に椅子を持ち込み、茶を勧めたりの工夫はしている。	○	家族との情報交換が面会時に行われるよう前もって課長・主任者へ連絡・相談する。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動制限は時々あるが、身体拘束はしていない。判断に困る時は、朝の連絡会で職員間で相談を行う。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外へ出たい方については散歩などで対応している。死角になっているドアについては鍵をかけている。が、日中鍵をかけないケアに取り組んでいる。		戸が開くと音楽が流れる等の工夫がしたい。様子観察の方法の工夫と、業務の見直しを行い、鍵をかけない工夫をして行く。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中食堂に常時職員が1名待機して様子観察を行っている。見守りの必要な方の傍を離れる場合は、他職員へ引き継ぎを行う。夜間は、定時の巡回を行い居室内の確認を行っている。記録も入居者の傍で行う等、危険な時は直ぐに駆け寄れる配慮をしている。	○	職員間の私語が多く、入居者に背を向けることがある。入居者とのコミュニケーションを密にすることに努める。
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や洗剤は場所を決めて危険がないように収納している。戸棚にカーテンを付けて目隠しをしている。針、はさみを所持している入居者に対しては、さりげなく見守りを行っている。		洗面台の清掃後洗剤のかたづけが出来ていない場合がある為、誤飲防止のため注意を促している。
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメント委員会を設置し、自己報告・ヒヤリハット報告を作成、活用し意識向上に努めている。	○	記録を活用することで、事故の軽減を図っている。が、具体的な対策が打ち出せない状況もある。ヒヤリハットの内容を職員に周知して事故防止に繋げる。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	隔月に緊急時の対応の研修を計画、実施している。		更に研修の実施を確実にいき、職員の不安の解消に繋げる。また、消防署へ依頼して心肺蘇生の研修を受ける。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災委員会を中心として、隔月毎に防災訓練を行っている。他の防災時の対応策や、地域の方々への協力依頼には取り組めていない。	○	自施設の中で訓練習得していく。地域消防団との防災訓練を計画し、依頼する。民生委員の協力を得る。災害、火災時のマニュアルを直ぐに取り出せる工夫を考えていく。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時、退院時など症状の変化に伴うリスクについては説明を行っている。リスクに合わせた対応について部署会議の中で話している。		生活で起こりえるリスクについてご家族に説明ができるように準備をする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルチェックに目を通し、食事量や顔色をみて入居者の変化に気をつけながら介護している。状態変化のある際は、連携して観察を行い併設施設の看護師、医療機関に連絡・相談を行っている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬チェック表に薬の作用が記載されており、入居者の服用している薬の確認を行っている。状態を観察し、薬剤調整を医療機関に依頼している。しかし、与薬忘れなど、十分な支援ができていないと言える。		職員個々が入居者の服薬目的・用法を確実に把握して事故報告をなくすように努める。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々に合わせた便秘対策を看護職員と調整しているが下剤に頼ってはいる。ヨーグルトを毎日食べて頂く事や寒天と一緒に炊飯するなど飲食物での便秘予防にも努めている。	○	副菜メニューに便秘予防の献立を立てる。日課として毎日、体操や散歩を行う。便秘時に不穏となる入居者の把握に努める。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のうがいと夕食後の口腔ケアは実施している。が、徹底できてはいない。うがいのできない入居者には、ガーゼを使用して口腔ケアを実施している。	○	職員間で実施の状況確認を行い、毎食後の口腔ケアに心掛ける。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量チェックを行っている。食事摂取量が偏っている方については嗜好品を把握して補っている。		水分については水分量を増やすため、茶だけでなく好みの飲み物を提供している。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルが配布されている。また、研修も受けている。入居者は、トイレ後、調理前の手洗い、外出後の嗽手洗いを励行している。		職員も外出後、出退勤時の手洗い・嗽を徹底する。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日冷蔵庫の清掃を行っている。食物の賞味期限の確認を行っている。調理器具・布巾の消毒を行っている。	○	食材庫の見直し、入居者の預かり菓子の管理について検討していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には飾りを付けたりと明るい雰囲気を作っている。また、玄関には、プランターに花を植えたり、イスを設置してくつろげる空間を作っている。		玄関下駄箱の上の整理、季節の花を途切れる事なく活かしたい。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて壁面を入居者と作り、飾っている。また、花を活けているが飾る場所などの工夫が必要である。	○	床の間に掛け軸、タンスの設置などで家庭的な雰囲気を出していきたい。また、フロアにはゆったり座れるソファを置きたい。トイレには使用中が分かりやすい札を作っていく。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士が会話ができる居間や談話室を設けている。また、廊下にイスを設置して誰でもくつろげる工夫を行っている。		現在、冬に向けて居間のコタツ布団の作成中です。また、入居者が好きな時にお茶を入れたりできる空間を設けていきたい。環境整備を行い安全な生活を送って頂けるようにしていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望、家族との相談を行い居室は居心地よく過ごしていただけるよう、馴染みの家具や花の鉢などを持ち込んで頂いている。家族の写真なども飾って頂いている。	○	リスクを考え、殺風景な居室の方も居心地よく過ごしていただけるよう、壁に貼るだけでなく音のする物、今以上に馴染みの物を置くなど工夫をしていきたい。
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	清掃時や時間を決めながら換気を行っている。空調調節も入居者に確認しながら行っている。		自立されている方への声掛け、空調調整が出来ない方への援助を行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体機能に合わせ、介護用ベットを導入し安全な介護・生活が送れるよう支援などを行っている。	○	手すりを増やすなど、リスク回避を行う必要がある。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所にはトイレを表示した紙を貼る、居室にも名前を貼るなどをして混乱や失敗を防ぐよう努めているが、まだ工夫が必要である。		トイレの場所がはっきり分かるよう表示を作りなおす事や、混乱させない声掛けの工夫を行う。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入居者と畑、花壇の作成をおこなったり、散歩をしているがスロープの設置が必要である。ベランダではプランターに野菜を植えて成長観察ができるよう工夫している。	○	菜園にでるには段差がある為、誰でも気軽に出られるよう段差をなくす事や、ベンチを設置してゆっくりと畑を眺められるよう工夫をしていく。また、中庭の修理を行い活用していきたい。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の生活能力を把握しながら、職員の発想を活かし創作活動（炬燵布団作成など）に取り組んでいます。また、菜園の実りや周囲の自然を楽しんで頂き入居者がゆとりある生活が送れるように努めています。